

資料 I

第1回富谷市協働のまちづくり推進審議会意見等一覧

課 題		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
1	(1)市民、地域の視点からの課題 ①多様化する市民活動への対応 ア. 生涯現役、人生百年がうたわれる中、地域の元気につながる高齢者の活躍や居場所、つながりをつくるなど社会参加を続けるための支援が必要。	1	高齢者が活躍すると地域の元気につながると言われている。高齢者は対価を得る前に社会参加をして、居場所づくりや居場所があることが大事。「今日、行く場所」と「今日、用事」があることが幸せて、一人ひとりができる役割を持って、人と人とのつながりを大事に一生涯幸福感を持ち続けられるような地域づくりができるのが富谷だと思う。そういったものを支援に盛り込んでいきたい。(日諸委員)	1	ポジティブウェルフェアの観点から社会参加と居場所づくりの問題がある。いかに生きがいを持って暮らしていくか、社会といかに関わってどんな役割があるか、稼ぐということにこだわらずに役割づくりということで多様な役割のつくり方があるのではないかな。
2	イ. 健常者も障がい者も一緒に活動できるよう、ノーマライゼーションの視点での支援が必要。	2	思いをもった人たちが主メンバーであれば、健常者も障がい者も関係なく、色々な所で活動の広がりが出ていく感じがする。富谷は富谷ならではの色々なことにチャレンジするまちなので、富谷ならではのものを作っていけるとよい。(村上委員)	2	町内会館や公民館をたくさん使って、色々な人たちが関わりとして増えていって、結果としてノーマライゼーション、健常者や障がい者関係なく活動展開になっている。
				3	高齢者や障害を抱えている方も含めてまちづくりを考えていくという視点は、協働のまちづくりの多様性という意味で必要。(佐藤(怜)委員意見No.9 に対する意見)
3	ウ. 町内会館、公民館の利用が活発な地域がある一方、人が集まりにくくなっている地域があるなど、地域によって課題が異なることから、地域の実情に応じた支援が必要。	3	町内会館、公民館を活用してきたが、成田のように利用が活発な地域がある一方、人が集まりにくくなっている地域があるということがわかった。(村上委員)		
		4	私の町内会で問題視されているのは、各家庭でも後継者がいないことや少しずつ人数が減ってきていることである。また、町内会に入らなくてもいいという人もかなり出てきている。人を集めるにはどうしたらいいか、どうしたら見向いてもらえるのか、コロナになってから皆離れていってしまう。もっと各家庭に訴えかける形のものが必要と思う。とみぶらなど色々なところで色々なことをやっていることも必要だが、どうやって底辺を盛り上げていくかということも必要である。(佐藤(政)委員)	4	市民の公益活動は大きく二つに分かれる。一つは集落や町内会といったエリアに起因するもの。もう一つはテーマに起因するものとなる。エリアの実態ということで担い手の不足やコロナの影響により活動が難しい状況。テーマというところではとみぶらがあるが、町内会などのエリアという部分に目が向かない。とみぶらのメンバーと町内会と関わり方を作っていくことが双方にとって良いことだと思う。
4	エ. 活動を継続していくための後継者問題が顕在化している。コロナ禍にあって、とりわけ町内会においては、活動の担い手や行事への参加者が減少するなどの問題が深刻化している地域もあることから、後継者の育成や町内会活動を盛り上げていくための支援が必要。	5	ボランティアセンターでも後継者問題がすごく出ている。会長の後続く会長がいないということで、30年間積極的に富谷市のボランティアを作ってきた団体が解散した。新たな人材というところまでの支援が課題だと思っている。(佐藤(怜)委員)		

課 題		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
5	②分野や地域を越えた連携・つながりづくり ア. 田園や森林が広がる地域がある本市の特性を生かし、そのような地域の町内会とNPOが連携するなど、分野や地域を越えた、各々の活動主体の長所をつなぐ支援が必要。	6	村上委員の意見を聞いて、農業を通してNPOと関わりを作って、そこで地域づくりやコミュニケーションづくりというのもあると思った。街かどカフェなど自分の町内会でもという思いでやってきたが、全然見向いてもらえないということもあるので、農業という自分たちの力を利用した輪づくりもいいのではないかと思う。(佐藤(政)委員)	5	町内会だけだと厳しい。我々を使ってとか、技術もありますということもあったが、使う、使わないというよりは協働とはこういうことである。市民協働セミナーなどでもやっぱりやりたいよねとなるような企画づくりが重要だと思う。
6	イ. 移住の受け入れや活動人口を増やす取組などを通して、活力が低下している地域に新たな連携やつながりを生み出していくための支援が必要。	7	移住を受け入れる制度とか移住する人がいれば次の世代につながるのではないかと。新興住宅地と旧まちの部分があって課題が全然違って、新興住宅地の部分はどんどん前に進んでいくが、旧まちの地区はそれに追いついていかないという悩みが多分あると思う。そういうところも底上げしていくことが必要だと思う。(北野澤委員)	6	富谷なりの新しい人の受け入れ、または住むだけではなく活動人口という考え方もあるので、富谷なりのモデルをどう作るかということである。
7	③地域資源(人材、施設)の活用 ア. 支援の拠点となっている、とみぶら、ボランティアセンターは住んでいる地域によっては距離的に利用しづらいことから、公民館など既存の施設を活用した身近な場所での支援も必要。	8	現状、市民活動支援拠点としてはとみぶら、ボランティアセンターということだが、距離的に遠い地域もあるので、各公民館を活用した情報提供や活動支援があるとよい。(北野澤委員)	7	市民活動を支援する施設については身近な場所での拠点をどうするか最終的にはハードの議論にもつながっていくが、その議論は慎重にしていってほしいとの意見だったと思う。
		9	ボランティアセンターが誰もが使える場所になっていないのではないかとすることはボランティアセンターでも課題になっている。包括支援センターの圏域の中にサブセンターがあるなど、身近に歩いていけるところにボランティアセンターがあって、社協のボランティアセンターは基幹型にできないかという話が出ているところである。(佐藤(怜)委員)	8	地域包括支援センターにおいても地域とどう連携していくかが視野に入っているとのことであり、市の支援の在り方においてもヒントとなる。
8	イ. 市民の活動の場として、最も身近な町内会館の活用を促進させていくことが必要。	10	身近にあって歩いて行けるところにあり、色々な活用ができる町内会館の存在を啓発し、有効活用していくことにより色々なことが活発になっていく。(増田委員)	9	拠点の在り方について、新しくハードを作るのはハードルが高いし、細かく作っていくことは無理なので、その中で、町内会館のような既にあるものをどう使っていくかということは重要な論点となる。
		11	体が不自由な方や高齢の方でも行くことのできる町内会館が一番身近であるので、47か所の町内会が、そこで色々な人が集まってくるようなことをすることで、活性化できるとよい。(平岡会長職務代理者)		

課 題		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
9	ウ. 既に活動をしている市民や団体が、活動を始めようとしている人や活動に悩みを抱えている人を支援する仕組みづくりが必要。	12	コロナを経て地域とのつながりを渴望し、地域で何かやりたいと考える人が出てきている。そういった熱い思いを持っている人が実現に向けて一歩踏み出せるよう、既に市民活動をしている人に相談できるようにつなげる支援体制を市として整えることにより、あちこちで持っている熱い思いが色々な形で小さな活動として広がっていくと思う。(増田委員)	10	活動のノウハウを入れたケースブックのようなものを作って、色々な活動事例を「見える化」していけば熱い思いを実現に向けて一歩踏み出させることができる。
10	④情報の発信と共有 ア. 市民が活動を始めるときにどのようにアクセスしたらいいのかわかりにくい面があるので、誰もがわかりやすい情報を発信し、浸透させていくことが必要。また、多くの人に施設を利用してもらえるよう、情報発信の方法を工夫することが必要。	13	公益的な活動をやっていきたいと考えているが、どのようにアクセスしていいかわからないし、市民にも浸透していない。(北野澤委員)	11	公益的な活動へのアクセスや市民への浸透ということはずっと議論してきたところである。ガイドラインを作って終わりではなく、発信し続けることが重要。
		14	とみぶらやとみやどなどは、明石台や東向陽台、成田などからは足がないとなかなか来られない。私も発信はしているが、遠いところから来てもらうためには、宣伝というか情報提供、発信の仕方だと思う。(平岡会長職務代理者)	12	どこでどんなことをやっているか情報をとりまとめてお知らせすることで足を運んでもらえるようなものを作ることも重要。
11	イ. 活動の事例やノウハウをまとめたケースブックのようなものを作成するなど、市民の活動などを広く共有するための支援が必要。	15		13	〔再掲〕活動のノウハウを入れたケースブックのようなものを作って、色々な活動事例を「見える化」していけば熱い思いを実現に向けて一歩踏み出させることができる。

その他		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
1	(1)提言のとりまとめについて 論点(総論、各論)を整理し、支援の在り方をとりまとめていく。	1	色々な所、色々な活動がある中で、ある程度セグメントして提言していくことが必要だと思う。ガイドラインでは各論的な部分で実際の例もある。(北野澤委員)	1	ガイドラインにも既に各論があるので、総論、各論ともに入れていかなければならないという意見である。今日の議論を基に、まず課題の整理をしてから、支援の在り方について答申を出す時のイメージを出せると思う。
2	(2)支援体制を構築していくうえでのプロセスについて 提言の中に整理していく。	2	これまでどおり丁寧に市民の意見を聴取し反映しつつ、目標とする期間の中で計画的に前に進めていくことが必要。(平岡委員)	2	新しいプロジェクトを進めていく時のプロセス、合意形成についての意見である。